

様式1(主な取組)

活動指標名	伝統芸能公演の開催件数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	13回	13回	15回	14回	16回	13回	100.0%	45,508	順調	国立劇場おきなわや各市町村と連携して広報活動を行い、若手実演家公演を16回実施した。
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
活動指標名	—				H29年度					
実績値										進捗状況の判定根拠と取組の効果 国立劇場おきなわを活用し伝統芸能の保有者が活躍できる場を提供することで、若手実演家の育成が図られた。 また、全体入場者数も昨年度比518人増の2,969人を記録し、県民が伝統文化に触れる機会の創出にも努めた。
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①引き続き、広く公演についての周知ができるよう情報発信の強化を図る。</p> <p>②各団体の若手構成率について、これまでの4割から5割に引き上げ、これまで以上に若手実演家の人材育成につなげられるようにする。</p> <p>③集客につながる公演プログラムについて、人材育成にもつながるよう配慮しながら検討を行う。</p>						<p>①マスコミの他、各種広報媒体を活用し、公演に関する情報発信の強化を図った。</p> <p>②40歳以下の若手実演家の出演割合をこれまでの4割から5割以上とする、応募要領の改正を行い、若手実演家の育成強化を図った。</p> <p>③集客率の向上や地域に偏りのない人材育成に繋がるよう、公演分野や地域性等にも配慮しながら公演プログラムを決定した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・採択団体により、公演プログラムや広報の手法などが違うことから、入場者数に差がある。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・採択団体により入場者数の差が出ないよう、公演プログラムの選定や広報の手法などの検討を行い、県民等が足を運びたいくなるような、魅力ある公演を実施できるよう努める必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・魅力ある公演プログラムを実施できるよう、公演分野に偏りが出ないよう配慮するとともに、マスコミや各種広報媒体を活用し、周知広報の強化を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	① 芸術文化活動拠点の活用・充実	
			施策の小項目名	—	
主な取組	博物館・美術館の管理運営			実施計画記載頁	53
対応する主な課題	②国立劇場おきなわ、県立博物館・美術館等については、県民等が利活用しやすい環境づくりが課題となっている。また、新たな文化発信交流拠点の整備に向けて取り組む必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
芸術文化活動拠点の活用・充実を目的に、博物館・美術館の管理運営に関し、情報発信の強化等について指定管理者と連携するとともに、博物館常設展示の魅力アップや沖縄美術史の認知度向上に資する施策の展開等、県民や観光客を惹きつける博物館・美術館作りに取り組む。		451,500人	474,000人	498,000人	500,000人	500,000人
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					
		学芸員の育成、沖縄文化の研究体制や企画展示の充実				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
博物館・美術館費									
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	111,340	101,104	101,749	101,514	118,436	108,944	県単等	○H29年度: 収蔵資料を展示する常設展・コレクション展のほか、企画展・特別展を開催した。また、学芸員講座、バックヤードツアー等の教育普及活動を行った。 ○H30年度: 常設展・コレクション展のほか企画展・特別展を計11回開催するほか、県民を対象とした学芸員講座、バックヤードツアー等を引き続き実施する。
予算事業名							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
—									
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	入場者数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		531,344人	424,602人	535,994人	435,239人	508,822人	451,500人	100.0%	118,436	順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①沖縄関係の資料の展示会を引き続き開催するとともに、最新のデジタル技術を活用した展示会やアジア美術の絵画展等、幅広く県民の関心に応える展示会を開催する。</p> <p>②指定管理者と連携し、テレビ、新聞広告、SNSを活用した広報を充実させる。また、観光客向けの多言語パンフレット、モノレール駅からの導線広告等を行う。</p>						<p>①沖縄県の文化に強い影響を与えた海をテーマにした特別展や最新のデジタル技術を駆使したアートの展覧会、ベトナムや台湾の作品の展覧会等、幅広く県民の関心に応える展覧会を開催した。</p> <p>②フェイスブックやツイッター等SNSを活用し、幅広い層に対する広報を行った。外国人観光客に向けて多言語(英語、中国語、韓国語)のパンフレットを作成するとともに、多言語・スマートフォン対応のホームページを整備した。また、モノレール駅からの誘客を促進するため導線案内を充実させた。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・県民のニーズの高い展覧会を開催するほか、沖縄の自然・歴史・文化に関する資料を体系的に調査研究を行うとともに、その成果を発表する特別展・企画展の集客力を高める工夫が必要である。

○外部環境の変化

・県内の利用者とともに県外・国外からの利用者のニーズに応える展示を行う必要がある。平成28年度の入域観光客(877万人)に占める当館来館者の割合は0.5%となっており、今後も引き続き観光客への広報を強化する必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・専門学芸員の体制を強化し、展覧会、調査研究活動の充実を図る。また、webを活用した調査研究成果の発信を充実させる必要がある。
- ・広報連絡会議により指定管理者との連携を強化し、県内外の来館者を惹きつける広報、集客イベントを実施する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・三線展等の沖縄の文化を紹介する展覧会はもとより、恐竜展等自然史関連の展覧会、美術と文学・音楽を絡めた展示、アニメーション作品展等、観光客を含む県内外の利用者を惹きつける展覧会を行う。

・Webを活用した収蔵資料の発信に取り組むほか、県内アーティストと連携したイベントを実施し、新たな利用者の掘り起こしにつなげる。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	① 芸術文化活動拠点の活用・充実	
			施策の小項目名	—	
主な取組	文化発信交流拠点の整備			実施計画記載頁	53
対応する主な課題	②国立劇場おきなわ、県立博物館・美術館等については、県民等が利活用しやすい環境づくりが課題となっている。また、新たな文化発信交流拠点の整備に向けて取り組む必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
沖縄独自の文化の保全・継承や芸術文化創造活動等を持続可能なものとするため、グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点を整備する。						
実施主体	県	文化発信交流拠点の整備				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	文化発信交流拠点整備事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	委託	15,906	7,847	207	251	10,217	447	県単等	○H29年度: 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務の企画公募を行い契約を締結した。 ○H30年度: 関係機関との調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	文化発信交流拠点の整備				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	実施計画 の策定	—	80.0%	10,217	概ね順調
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
都市計画決定を行わない施設整備のあり方も含め、引き続き、浦添市をはじめとする関係機関との連携の強化を図るとともに、施設整備に係る要件整理や施設整備場所の検討に係る委託業務を実施する。						都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務の企画公募を行い契約を締結した。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定したエリアは、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要する。
- ・当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市である。

○外部環境の変化

- ・那覇市新市民会館や琉球新報ホールが整備されることにより、那覇市内における劇場機能が強化される。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・引き続き、浦添市をはじめとする関係機関と調整を進めるとともに、外部環境の変化も考慮しながら、実施計画の策定に向けて取り組む必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・関係機関との調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む必要がある。

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	—	—	—	—	設置・運営	—	100.0%	139,878	順調	<p>活動概要</p> <p>沖縄県文化協会への委託により、平成29年9月12日に「しまくとぅば普及センター」を設置し、センター長を含め職員6名を配置した。同センターにおいて各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、県民からの相談対応等の業務を実施した。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
活動指標名	—				H29年度					
実績値										<p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>「しまくとぅば普及センター」の開設に伴い、同センターが普及の総合窓口として機能したことにより、県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。</p> <p>同センターの運営により、人材養成講座を24地域で開催、出前講座も6回開催するとともに、地域(中南部・宮古・八重山)の会話集作成も行った。</p>
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
—						—				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・「しまくとぅば普及センター」の専任職員数が不足しているため、全県的な対応が十分でない。

○外部環境の変化

・「しまくとぅば普及センター」について、県民への周知がまだ十分ではない。
・地域によって、しまくとぅば普及への取組意欲の差異が大きい。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・「しまくとぅば普及センター」の専任職員を増やすとともに、普及センターの広報を強化する必要がある。
・普及センター職員の積極的なアプローチやサポートにより、取り組みが弱い地域に対して「同センター」の活用を促す必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・「しまくとぅば普及センター」運營業務に従事する職員(6名→8名)を増員する。
・各関係機関とも連携を図り、「しまくとぅば普及センター」についての広報活動を強化する。
・各市町村、地域文化協会等との連携により、取り組みの弱い地域(北部、八重山地域)に対して、人材養成講座や出前講座の開催を促す。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	② 社会全体で文化活動を支える基盤の構築	
			施策の小項目名	—	
主な取組	沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業			実施計画記載頁	54
対応する主な課題	①県内には、伝統芸能の保有者やアーティストが活躍できる場が少なく、その力が生かされていないなど、芸術文化創造活動を支える仕組みが十分とはいえないことから、関係機関が連携し、文化芸能活動を支える仕組みを充実させる必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
文化芸術活動の持続的発展に資する取組を県内文化関係団体より公募・採択し、支援する。		22件				
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】				
		県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
予算事業名	沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	補助	—	—	—	—	108,965	105,935	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 文化芸術活動の持続的発展に資する取組を県内文化関係団体より16件採択し、支援した。 ○H30年度: 文化芸術活動の持続的発展に資する取組を県内文化関係団体より公募・採択し、支援する。	
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
									○H29年度: ○H30年度:	

様式1(主な取組)

活動指標名	県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	16件	22件	72.7%	108,965	やや遅れ
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
—						—				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・平成29年度は複数回の公募を行ったものの、県内文化関係団体からの応募件数は45件、採択件数は16件となり、支援事業数22件の計画値を達成できなかった。

○外部環境の変化

・文化芸術振興基本法の改正により平成29年6月施行となった文化芸術基本法では、文化芸術に関する施策の推進に当たっては、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならないこととされている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事業趣旨の周知徹底や、新たな応募事業者の掘り起しにつながる取組が求められる。
- ・地域の多様な主体に対して、文化芸術資源を活用する取組についての認知度や関心の向上を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・離島も含めた県内各地域で本事業への応募に向けた相談会を月1回以上のペースで実施し、応募企画のブラッシュアップや新たな応募事業者の掘り起こしに向けた支援を継続的なものとする。

・地域の多様な主体(企業、教育機関、医療・福祉機関、NPO等)向けに、文化芸術資源を活用する取組への意欲喚起に向けたセミナー等を開催する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	② 社会全体で文化活動を支える基盤の構築	
			施策の小項目名	—	
主な取組	沖縄県文化振興会への支援と連携			実施計画記載頁	54
対応する主な課題	①県内には、伝統芸能の保有者やアーティストが活躍できる場が少なく、その力が生かしきれていないなど、芸術文化創造活動を支える仕組みが十分とはいえないことから、関係機関が連携し、文化芸能活動を支える仕組みを充実させる必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
文化活動を支える基盤の構築を目指し、沖縄の文化芸術の中核機関として、沖縄県民の主体的、創造的な文化活動を支援し、本県の文化・芸術・学術の振興を図る。						
実施主体	県、文化振興会	(公財)沖縄県文化振興会が実施する文化事業等に対する補助				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	沖縄県文化振興事業等推進費						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	補助	40,946	44,100	44,100	45,410	45,508	45,508	県単等	○H29年度: 沖縄県文化振興会が文化芸術の振興を図る事を目的に実施する事業(文学賞事業、文化活動支援事業、かりゆし芸能公演など)に対して支援を実施した。 ○H30年度: 沖縄県文化振興会が文化芸術の振興を図る事を目的に実施する事業(文学賞事業、文化活動支援事業、かりゆし芸能公演など)に対して支援を実施する。
予算事業名	—						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	(公財)沖縄県文化振興会が実施する文化事業等に対する補助				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	補助の実施	補助の実施	補助の実施	補助の実施	補助の実施	—	100.0%	45,508	順調	<p>活動概要</p> <p>(公財)沖縄県文化振興会が実施する公益を目的とした事業(沖縄県芸術文化祭開催事業、文化活動支援事業、かりゆし芸能公演など)に対して、支援を実施した。</p> <p>また、事業実施にあたっては県の実施する事業とも緊密に連携するなど、効果的な事業展開に努めた。</p> <p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>(公財)沖縄県文化振興会へ補助金を交付し、その活動を支援しながら、文化専門員の持つ専門的な知識を活用して各文化関係団体への支援を行う等して、県から受託する事業を効果的に実施した。</p> <p>支援事業であるかりゆし芸能公演については昨年度比518人増の2,969人の入場数を記録し、県民が伝統文化に触れる機会の創出に努めた。</p>
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
事業の進捗状況について、情報交換を定期的に行う。						実施事業の進捗を確認するため、県及び文化振興会の担当職員による調整会議を定期的で開催した他、公募事業については県の担当職員が審査員の一人として参加するなど、緊密に連携を図った。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・かりゆし芸能公演について、採択団体により公演プログラムや広報の手法などが違うことから、入場者数に差がある。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・採択団体によって入場者数の差が出ていることについては引き続き改善が必要であるため、公演プログラムの選定や広報の手法などの検討を行い、県民等が足を運びたくなるような、魅力ある公演を実施できるよう努める。



4 取組の改善案(Action)

・魅力ある公演プログラムを実施できるよう、公演分野に偏りが出ないように配慮するとともに、マスコミや各種広報媒体を活用し、周知広報の強化を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	② 社会全体で文化活動を支える基盤の構築	
			施策の小項目名	—	
主な取組	地域文化継承支援事業			実施計画記載頁	54
対応する主な課題	③地域の文化は、文化関係団体をはじめ、県民、NPO・ボランティア、企業など多様な主体の参画により支えられ発展していくことから、文化関係機関相互が連携し情報交換等を行いながら、文化の保全・継承・発展に対する県民の関心や意識を高め、沖縄社会全体で文化活動を支える環境を構築することが求められる。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
普段、祭事等でしか披露されていない地域の伝統芸能等を国立劇場おきなわに集め、舞台公演として県民へ披露する「特選 沖縄の伝統芸能」を開催するとともに、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。		3回以上シンポジウム開催				
		各地域でのシンポジウム等の開催				
実施主体	県、文化協会	1回以上公演回数				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】	地域の伝統芸能を集めた公演				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
予算事業名	地域文化継承支援事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度: シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回	
県単等	委託	—	—	7,248	8,748	9,408	—		○H30年度: —	
予算事業名	地域の文化継承・発信支援事業(後継事業)						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H29年度: —	
県単等	委託	—	—	—	—	—	9,550	県単等	○H30年度: シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回	

様式1(主な取組)

活動指標名	各地域でのシンポジウム等の開催				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	3回	3回	100.0%	9,408	順調	<p>活動概要</p> <p>県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとぅば等の普及・継承についてのシンポジウムを計3回実施し、計350名の来場者があった。また、普段は地域の祭事等でしか披露されていない、各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演「特選 沖縄の伝統芸能」を実施し、620名の入場者があった。</p> <p>進捗状況の判定根拠と取組の効果</p> <p>県内3地域(与那原町、金武町、那覇市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化公演(シンポジウム)を開催し、地域の伝統行事の発信及び活性化を図った。</p> <p>また、県内各地域で披露されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場おきなわで披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行うことで、自らの地域の伝統芸能等の重要性の再認識が図られた。</p>
活動指標名	地域の伝統芸能を集めた公演				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	1回	1回	100.0%			
活動指標名	—				H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>①引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。</p> <p>②各地にそれぞれ共通して伝わる伝統芸能のうちの一つをテーマに取り上げ、複数の地域を招いて、その比較・検証をとおして、自身の地域の伝統文化を見つめ直すことのできる文化講演会を開催する。</p>						<p>①各地でのシンポジウムを3回開催した。地元で伝統芸能の保存継承に携わっている方をメインにパネリストを構成した他、各地域の伝統芸能のデモンストレーションも含めたプログラムとしたことから、地域住民が活発に意見を交わす姿が見られた。</p> <p>②シンポジウム及び公演会の開催により、地域の伝統文化を保存継承や今後の文化関連団体のネットワークを強化していくべきであるという共通認識が図られた。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。
・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。
・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。
・各地にそれぞれ共通して伝わる伝統芸能のうちの一つをテーマに取り上げ、複数の地域を招いて、その比較・検証をとおして、自身の地域の伝統文化を見つめ直すことのできる文化講演会を開催する。